

2 中学校社会科

(1) 単元名

第1学年 「アメリカ合衆国」

(2) 単元設定の理由

地理的分野における「(1) 世界とその諸地域」「イ 様々な地域」の学習では、世界の中のいくつかの地域または国の人々の生活の地域的特色を多面的に理解し、世界が様々な地域や国から成り立っていることをとらえさせることを主なねらいとしている。本単元では、「アメリカ合衆国」を取り上げ、その地域的特色を考察しながら他の類似した地域や国の特色に結び付けてとらえることができるようにしたい。

アメリカ合衆国は、我が国との関係も強く、産業・経済・文化等の交流も深い。また世界に及ぼす影響力も大きいものがある。したがって、学習する上においても情報や資料が比較的豊富であり、生徒が無理なく調べることができ、多面的に考察できるものとする。ここでは、これまでに身に付けてきた資料の見方や活用方法に関する学習成果を基盤に、グループ別の調査学習として設定した。特に、アメリカ合衆国の農業や工業を中心に、生徒が様々な視点から調査を進められるように配慮したい。この中では、我が国の場合と比較関連させるとともに、地理的・歴史的・社会的な条件との関連に目を向けさせたい。さらに、今日的な課題点についても迫ることを通じてアメリカ合衆国がもつ特色について考察させたい。

こうしたグループで設定した個々の課題を解決していく過程を通して、必要な資料を自らの判断で選択し活用していくこととなり、地理的事象を多面的に考察し、公正に判断する能力や態度を身に付けていくことができる。さらに、調査結果を聞き手に分かりやすいように発表する方法を工夫するという一連の過程を通じて、設定した課題を解決する喜びと表現する喜びとを味わうことができる。その結果、「学ぶ意欲」を高めるとともに「学び方」を身に付けることができるものとする。

(3) 単元の目標

- ・ アメリカ合衆国の産業や地域的特色について興味をもち、グループで設定した課題に基づいて協力しながら解決しようとする。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・ 課題解決に必要な資料を選択し、必要に応じて加工し、図表やグラフに表現する方法を身に付けるとともに、図表やグラフ等から地域の変化、特色、課題等を読み取ることができる。 (資料活用の技能・表現)
- ・ 複数の資料を関連付けて活用することにより、産業や地域的特色を多面的にとらえることができる。 (社会的な思考・判断)
- ・ アメリカ合衆国の産業や地域的特色について理解するとともに、我が国との違いや深いつながりに気付くことができる。 (社会的事象についての知識・理解)

(4) 単元の指導計画（全8時間）

次時	学習過程	学習活動	指導上の留意点	評価の規準
第一 次	1 課題把握	・これから学習するアメリカ合衆国の農工業についての概要を把握し、各グループで、調査学習のコースと中心的なテーマを設定し、グループ内での役割分担を決める。	・インターネットで入手した資料を活用して視覚に訴えることで、生徒の興味・関心を高める。 ・コンピュータに入力されているデータの内容を簡単に説明し、資料に対する興味を抱かせ、今後の調査学習の見通しをもたせる。	・グループでの話し合いに積極的に参加し、これからの調査学習に対する見通しがもてる。 (関)
第二 次	2 課題探求 3 4 5	・アメリカ合衆国の農業や工業に関するグラフを作成し、考察する。 (本時 1/4) ・「調査学習の進め方」(資-6)に示された「各分野を調べていく上での視点」を踏まえて、各グループの課題を調べる。 ・グループごとに調べたことを、整理し調査用紙にまとめる。 ・発表の準備をする。	・コンピュータの操作は、必要なものだけに絞り、時間の短縮を図る。 ・調査項目等を絞り込む視点を予め提示し単元の目標に沿って課題探求されるように支援する。 ・豊富な資料が活用されるように、インターネット等を使って教師が可能な限り準備する。 ・発表を想定して、なるべく発表原稿を書かせるようにする。	・作成したグラフに対して興味を持ち、意欲を持って課題解決に向け取り組もうとする。 (関) ・複数の資料を結び付けて活用することで、地域の特色を多面的に考察できる。(思) ・図表やグラフ等から地域の特色や変化、課題等を読み取ることができる。(資)
第三 次	6 結果発表 7 8	・アメリカ合衆国とその産業について、各グループで調べた結果を全体に発表する。 ・他のグループの発表を聞いて、気付いたことや疑問を出し合い、更に考えを深める。 ・教師の補足説明を聞き、単元の学習のまとめをする。	・他グループの発表をよく聞き、自分のグループの調査結果と比較関連させる中でアメリカ合衆国とその産業に対する理解が一層深められるように支援する。 ・農業、工業以外の内容について、発表内容とも絡めて補足説明をする。	・図表やグラフ等の資料を適切に活用し、分かりやすく発表することができる。(資) ・他グループの発表を聞いて、自己の調査結果と比較関連させることで、アメリカ合衆国とその産業に対する理解を深めることができる。(知)

(関) 社会的事象への関心・意欲・態度、(思) 社会的な思考・判断、(資) 資料活用の技能・表現、(知) 社会的事象についての知識・理解

(5) 本単元の指導におけるコンピュータ活用の考え方

社会科の授業でコンピュータを活用する場合、多様な方法が考えられる。インターネットやマルチメディア型の活用も視野に入れるなら、その可能性は限りなく広がる。しかし、今回は、現時点での府内の中学校におけるコンピュータ機器設置についての平均的な環境を有効に生かすことを前提として、既存の機器やソフトウェアを授業の中で活用できる方法を考えてみることにした。

そこで本単元では、コンピュータをグラフ作成作業で活用してみる。予め教師が入力しておいたアメリカ合衆国にかかわる各種データを基にグラフを作成する過程で、コンピュータの優れた能力を体験的に確認でき、達成感を味わうことができる。こうしたコンピュータならではの優れた機能を使い、情報を必要な形に加工し、自分が必要とする資料を簡単に作成できると気付くことは、情報活用能力を高めていくことにもつながる。また、コンピュータを適切に活用することを通じて、学習する単元にかかわる興味・関心を一層高め、学習意欲を高めることができるものと考えている。

今回使用したソフトウェアは、多くの学校に導入されており、表計算の事務作業等で教師が活用する機会が比較的多い「Lotus 1-2-3」である。このソフトウェアを使って、既存のコンピュータを生かしながら授業に活用する方法を検討するというのを今回のテーマの一つとした。(* Lotus 1-2-3 は、Lotus Development Corporation の登録商標です。)

(6) 本時の目標

- ・ 学習課題の解決のために、進んで学習に取り組もうとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・ 作成したグラフの中から課題解決のために必要なものを選択し、そこから合衆国の産業の特色や変化、課題等を読み取ることができる。
(資料活用の技能・表現)
- ・ 作成したグラフの中から関連する三つのグラフを選択し、その関連性について考察できる。
(社会的な思考・判断)

(7) 本時の展開(次ページ参照)

(8) 本時の評価

- ・ コンピュータの操作に関心をもち、グループで協力して学習課題を解決しようとしたか。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・ 作成したグラフの中から課題解決に必要なものを選択し、産業の特色や変化、課題等について考え、疑問に思ったことなどを調査用紙にまとめることができたか。
(資料活用の技能・表現)
- ・ アメリカ合衆国の産業に関する三つのグラフを選択し、それぞれの関連性について考察できたか。
(社会的な思考・判断)

(9) 指導上の工夫

ア 使用ソフトとデータの準備

本単元で使用したソフトウェアは、「Lotus 1-2-3」です。このソフトウェアがもっている「グラフ作成機能」が、簡単な操作で社会科の授業に活用できると考えました。社会科では、各分野で様々な資料を表やグラフに表したり読み取ったりします。そこで、既存のコンピュータを生かし、このソフトウェアのグラフ作成機能を社会科地理的分野の授業の中で活用できないものかと考えました。また、教師自身が活用する機会も比較的多く、操作にも慣れていると考えることもできます。

しかし、社会科の学習用のソフトウェアとして作られたものではないので、社会科の授業で活用しようという場合、当然ながら必要なデータは自分たちで入力しなければなりません。これを生徒に入力させることも考えられますが、相当な時間がかかる上に、操作も難しくなってしまいます。あくまでも活用のねらいは、コンピュータの「グラフ作成機能」を授業に生かすという一点に絞って、今回のデータの 입력は、教師側で行うこととしました。多少時間はかかりますが、授業内容に照らし合わせて、教師が必要なデータを選択できるので、むしろデータを変更できない既製のソフトウェアを使うよりも柔軟な教材が準備でき、授業の展開の上で必要なものだけに絞り込めるという利点もありました。

データの内容は、アメリカ合衆国や日本を含む36か国に関わる21の項目についての数値です。入力項目を設定する上で特に配慮したことは、農・工業の特色をつかむ上で、適切な指標となるような数値であることをまず考えました。また、同じ種類のグラフに表すことができるように、「Lotus 1-2-3」の同一のワークシート上に入力できる種類の資料であることも必要です。

(7) 本時の展開

過程	学習内容	学習活動		個に応じた指導の手だて		評価の観点	
		形態	主な学習活動	指導上の留意点	観、形、時		
導入	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題の把握 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 教師が入力しておいたデータについての説明を聞き、概要を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> どのようなデータが入力されているか説明し、個々の資料への興味・関心を高め、どんなグラフが作れるかイメージできるようにする。 	コンピュータソフト	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習へのイメージをもとうとしているか。(関) 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータによるグラフの作成 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータの操作方法について、「人口」を例に教師が行う操作の様子を見ながら説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Lotus 1-2-3」は、予め立ち上げておく。 操作方法について、一通りの説明をする。 「Lotus 1-2-3」の操作方法を記した模造紙を黒板に貼り、説明を補足する。 	コンピュータソフト	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータの操作に興味をもち意欲的に取り組もうとしているか。(関) 	
	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国の農・工業に関するデータの加工とグラフの作成 	ペア	<ul style="list-style-type: none"> 「人口」を例として実際に操作する。 	<ul style="list-style-type: none"> 並べ替え(ソート) グラフ作成 グラフの印刷の操作方法について 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い操作に困っている生徒を支援する。 データの加工やグラフの作成ができるように支援する 		<ul style="list-style-type: none"> グループで協力して作業しようとしているか。(関)
閉	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国の農・工業に関するデータの加工とグラフの作成 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> グループ内における各自の分担に応じて、グラフを作成し印刷する。 印刷したグラフを切り取り、ワークシートにのりで貼り付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループ五つ程度のグラフが印刷できるように支援する。(机間指導) 次時以降の調査学習で活用できるグラフを選択できるように支援する。 ワークシートに貼り付けるグラフは、その内容から関連付けられるものを三つ選べるように支援する。(机間指導) 	はさみのりワークシート	<ul style="list-style-type: none"> グループで協力して作業しようとしているか。(関) 	
	<ul style="list-style-type: none"> 作成したグラフについての考察 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのグラフから考察し、ワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 並べ替え(ソート)の練習 グラフ作成の練習 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループ五つ程度のグラフが印刷できるように支援する。(机間指導) 次時以降の調査学習で活用できるグラフを選択できるように支援する。 ワークシートに貼り付けるグラフは、その内容から関連付けられるものを三つ選べるように支援する。(机間指導) 		<ul style="list-style-type: none"> 作成したグラフを読み取り、アメリカ合衆国の産業の特色に気付くことができたか。(資) 三つのグラフの関連性に気付くことができたか。(思)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめ 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを完成させる。 次時の学習課題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① グラフから気付いたことをまとめよう! ② 疑問に思ったことを書き上げよう! ③ 三つのグラフを関連付けて考えると、新たにどんなことが言えるかまとめてみよう! 	<ul style="list-style-type: none"> 各グラフから合衆国の産業の特色に気づき、疑問点やさらに調べてみたいことをワークシートに整理することを通じて、次時の学習意欲が高められるように支援する。 	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> 次時の学習課題をもつことができたか。(思)
		一斉	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを完成させる。 次時の学習課題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 更に関心のある課題をもち、次時の調査学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書室の書籍を紹介する。 インターネットで入手した資料を紹介する。 	ワークシート	

※ (関) ……社会的現象への関心・意欲・態度、(思) ……社会的な思考・判断、(資) ……資料活用の技能・表現

具体的には、面積、人口、人口密度、国民総生産、穀物自給率、耕地面積、1ha当たりの収量、1ha当たりの肥料消費量、トラクター保有台数、小麦・米・大豆・いも類・とうもろこしの生産高、自動車生産台数、粗鋼・一次エネルギーの生産高、産業用ロボットの設置台数、通信機器・工作機械・コンピュータの生産額などです。また、36か国を選んだ基準については、まず、中学校段階で教科書に出てくる基本的な国名をあげ、更に21の項目それぞれについての世界ランキング上位10か国が正しく出てくるように配慮しています。

国名	項目（「世界国勢図会」'96/'97 第7版より）											
	面積 (千km ²)	国民総生産 (億ドル)	穀物自給率 (%)	耕地面積 (千ha)	収量/ha (kg)	肥料消費量 /ha (kg)	トラクター保有 台数(千台)	小麦 (千t)	米 (千t)	大豆 (千t)	いも類 (千t)	とうもろこし (千t)
	1993年	1993年	1984~86年	1993年	1994年	1993/94年度	1993年	1994年	1994年	1994年	1994年	1994年
アメリカ合	936.4	67374	109	187776	5572	108.4	4800	63141	8972	69626	21432	266629
日本	37.8	43211	22	4463	6449	407.1	2041	565	14976	99	5244	...
ドイツ	35.7	20755	106	12116	5721	220.5	1300	16129	-	3	9257	2357
フランス	55.2	13550	221	19439	6554	237.2	1460	30852	124	262	5456	13010
カナダ	997.1	5699	146	45500	2598	60.1	710	23350	-	2251	3518	7013
韓国	9.9	3665	55	2055	5808	473.8	77	2	7056	160	721	75
スペイン	506	6253	113	19656	2332	92.9	775	4312	390	11	4084	2265
イギリス	24.4	10695	105	6127	6451	338	500	13100	-	-	7065	...
ウクライナ	604	809	...	34417	2586	39.4	425	13857	79	31	16102	1539
シンガポール	0.6	658

—は、皆無なこと、または当てはまる数字のないこと
 ...は、不詳なこと、または記載がないこと

資 - 1 「データを入力したワークシート」（農業に関するデータ）

イ コンピュータの操作に関わる教師の支援

今回、コンピュータを授業の中で活用することとしたねらいは、コンピュータの優れた機能に気付くとともに、資料の収集・選択・処理・活用の能力を養い、学習に対する意欲向上につなげていくことにありました。しかし、1年生のこの時期では、ほとんどの生徒が初めてコンピュータに触れる場合が多く、難しい操作にぶつかればせっかくの意欲も失いかねません。そこで、起動やデータの読み込み等といった操作は、予め教師がやっておき、生徒が操作する部分は必要最小限になるように考えました。例えば、グラフの種類についても、簡単な設定の変更で、円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ等に変更できるのですが、今回は、はじめから棒グラフだけで表すことを前提として、入力データも準備しておきました。

また、「本授業のねらい」や「グラフ作成・印刷の方法」について大きく書いた模造紙を黒板上に貼り出すとともに、それぞれのコンピュータの横にも簡単な操作手順を記したカードを準備しておきました。操作につまずいた時、それらを参照すれば自力で解決できるように工夫したものです。そして机間指導を丁寧に行う中で、こうした操作に関わる問題は解決することができました。

ウ 単元導入段階でのインターネットの活用

今後どの学校でもマルチメディアやインターネットが使用できる環境が整うものと考えられますが、そうした場合、生徒自身が直接インターネットを使って、情報を得たり、調べたり、また、情報を発信したり、校外の多数の人々と交流したりすることで大きな成果が期待されています。とりわけ社会科においては、様々な活用方法が考えられるところです。例えば、調査学習をする場合、これまでなら図書室で調べるといっても図書に限られてしまうため、教師が準備資料を作成するなど資料収集に困難さを感じるがありました。ところが、

グループに1台のインターネットにつながったコンピュータが準備されているとすれば、生徒はこれを用いてごく簡単に多くの資料を入手することができます。学校の図書室で入手できる資料は、質的にも量的にも限られたものですが、インターネットの場合、質こそ様々ではあるものの、量については全く比較になりません。手慣れてさえいれば、ごく簡単に必要な資料を入手することができます。また、単なる情報収集にとどまらず、専門家や公的機関や企業等に対して直接意見を聞くことができるなど、より能動的に授業を展開していくことが可能になります。さらに、こちらから情報を発信し、交流していくこともできるわけであり、教室に居ながらにして、全国・全世界の最新の情報を手にするとともに、世界へ向けて情報を発信することができるわけです。こうした情報手段としてのコンピュータの活用は、社会科にとっては大いに価値あるものと考えることができます。

以上の観点を踏まえて、本単元では、学習内容にかかわる意欲の向上とコンピュータに対する関心を高めることをねらいとして、教師がインターネットで収集した資料を、生徒に提示するという方法で、単元の導入を計画しました。生徒が使うコンピュータがインターネットにつながっていないなくても、教師が教材研究の段階で入手した資料を生徒に提示するという方法をとるだけでも、授業の興味付けという点で十分活用できます。教師のノート型のコンピュータに保存したページを直接プロジェクターを通して映し出したり、カラー印刷したものをオーバーヘッドカメラで映し出すという方法も可能です。今回は、後者の方法を用い、カラー印刷した写真資料を中心に、オーバーヘッドカメラを使って生徒用のディスプレイに次々と映し出しました。これを活用したことで、生徒の意欲は高まり、積極的な発言が見られるなど、これから始める学習に対する興味関心を高めることにつながりました。こうした活用方法は、社会科ではとりわけ導入の部分で効果的だと言えます。

エ 生徒の反応

社会科の授業改善を進める上で、授業展開の中でコンピュータを活用することがどのような意味をもつのかという点については、すでに(5)で述べました。コンピュータをめぐる技術革新が日進月歩の勢いで進み、インターネット等を通じて、教室に居ながらにして各種の情報を入手できるようになり、これらを積極的に活用することで、これまでできなかったことが、教師の工夫一つでいくらかでも可能になるものと考えられます。

こうした中であって、生徒は社会科授業でコンピュータを活用するということについてどのようにとらえているのでしょうか。今回、コンピュータを活用した授業終了時(第2時の終了時)にアンケート調査を実施しました。結果は、次ページの(資-2)が示す通りですが、生徒たちが、コンピュータに対して強い関心を示しており、社会科の授業でもその積極的な活用を望んでいることが分かります。

コンピュータ操作に対する意識としては、「少し難しかった」と答えた生徒が55.6%でした。しかし、「大変難しかった」と答えた生徒はわずかに2人(1.4%)に過ぎません。そこで、「少し難しかった」と答えた生徒79人が、どの程度の意欲をもって授業に取り組めていたかについて、の項目をクロス集計することで更に分析を加えてみました。その結果は、「大変意欲的に取り組めた」(44%)、「少し意欲的だった」(24%)であり、これを合わせると88%にも達します。また、「大変難しかった」と答えた2人についても、「大変意欲的に取り組めた」が1人で、「普段と変わらない」が1人であり、操作

の難しさが意欲の減退に直接結び付かなかったことを示しています。つまり、コンピュータの操作は、少し難しく感じたものの普通の授業と比べれば、意欲的に取り組めたと生徒たちは自己分析していることが分かります。

パソコンを使ったことで、社会科の授業に対して普段よりも意欲的に取り組みましたか	
ア 大変意欲的に取り組めた。	ア 86人(60.6%)
イ 少し意欲的だった。	イ 33人(23.2%)
ウ 普段とかわらない。	ウ 18人(12.7%)
エ 普段より意欲が出なかった。	エ 5人(3.5%)
パソコンの操作は、あなたにとってはどうでしたか。	
ア とても簡単だった。	ア 39人(27.5%)
イ 少し難しかった。	イ 79人(55.6%)
ウ 大変難しかった。	ウ 2人(1.4%)
エ 何とも言えない。	エ 22人(15.5%)
資料を加工し、活用することで、パソコンを使うことをどのように感じましたか。	
ア 資料を簡単に整理したり、グラフが作成できたことが大変良かった。	ア 119人(83.8%)
イ 操作が難しいのでパソコンを使ったことで、かえって分かりにくかった。	イ 4人(2.8%)
ウ 何とも言えない。	ウ 19人(13.4%)
今後も社会科の授業でパソコンを使うことについてどのように思いますか。	
ア 大歓迎であり、どんどん使いたい。	ア 107人(75.4%)
イ 時々使ってみよう。	イ 30人(21.1%)
ウ あまり使いたいとは思わない。	ウ 1人(0.7%)
エ 何とも言えない。	エ 4人(2.8%)

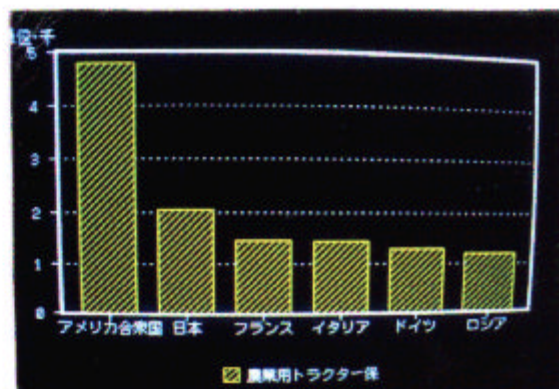
資 - 2 コンピュータの活用に関するアンケート調査結果

また、83.8%の生徒が「資料を簡単に整理したり、グラフが作成できたことが大変良かった」と答えており、コンピュータの優れた能力の一部を体験的に確認することができたものと考えられます。こうした資料から、社会科の授業でコンピュータを使うことに対する生徒の前向きな姿勢をうかがい知ることができます。

アンケートの結果に加えて、今度は、生徒が作成したグラフや調査用紙に目を向けてみることを通じて、今回の授業におけるコンピュータ活用について考えてみたいと思います。生



資 - 3 「ワークシート画面」



資 - 4 「グラフ画面」

徒の活動を順に追いながら見ていくと、まず各グループで必要とするデータを（資 - 3）の項目の中から選択し、降順に並び替え（ソート）します。そして並び替え（ソート）されたデータのグラフを作成します（資 - 4）。

こうして各グループごとに作成されたグラフを印刷して切り抜き、その中から関連性の高いものを三つ選択してワークシートに貼り付けます。さらに、それぞれのグラフについて「気付いたこと」と「疑問に思ったこと」、また「三つのグラフの関連性に着目することで言えること」について、ワークシートに自由に書かせました（資 - 5）。グラフを正しく読み取れなかったり、間違った解釈もありましたが、それらは、第3時以降の学習の中で解決されていきました。ここでのねらいは、調査学習に入る前のウォーミングアップとして、グラフを読み取る基本を身に付けるとともに、複数の資料を活用することで多面的な見方ができることに気付くように配慮しました。そして、ここで記した「気付いたこと」や「疑問に思ったことを」を基に、第3時以降の調査学習で、グループの課題である「アメリカ合衆国の農・工業」についての学習が一層深められていくことを期待しました。

そして、各グループで調査学習を進めていく上での留意点については、プリント「調査学習の進め方」（資 - 6）を配布し、調査学習の視点が絞り込みやすくなるよう配慮しました。

アメリカ合衆国の農業 No.1 ()組()番

◆ 合衆国の農業にかかわるグラフをパソコンで作成し、切り抜いて貼り付けよう。

大豆

何年の資料か？ (1994)年

何をもとに作成された資料か？ (『世界国勢図会』96/97年版)国勢社)

◎グラフ①から気付いたこと
アメリカが 最も多いに 99116
よく見ると面積が広い所が 1つ3位位 あり 4.2倍
★疑問に思ったこと
日本は 大豆の 多いに 入っていない
大豆は日本産が多いと聞い

穀物自給率

何年の資料か？ (1994)年

何をもとに作成された資料か？ (『世界国勢図会』96/97年版)国勢社)

◎グラフ②から気付いたこと
オーストラリアが 1位に 多いに 100

★疑問に思ったこと
アメリカや 中国が すごいと思っただのに 入っていない
と聞いマス

◆ アメリカ合衆国の農業について、3つのグラフを関連付けて考えてみると何がわかりか、3つのグラフの関連性に着目することで、言えることを自由にまとめて下さい。

◎大豆とトウモロコシはアメリカが 断然 1位だけ、穀物自給率の 全体で見るとオーストラリアが1位、アメリカが入っていない

◎

トウモロコシ 1994

何年の資料か？ (1994)年

何をもとに作成された資料か？ (『世界国勢図会』96/97年版)国勢社)

◎グラフ③から気付いたこと
トウモロコシもアメリカが多い
トウモロコシ = アメリカと思っただの、さきほど大豆と聞いマス

★疑問に思ったこと
中国はあまり有知れぬ、聞いたことないの
2位なのは、中国か
アメリカは、どのくらい生産しているのか

資 - 5 「ワークシート」

(10)まとめ

社会科でコンピュータを活用する上で留意することは、コンピュータの操作方法だけを教えることが最終目的ではないということです。コンピュータは、情報収集や資料の加工や表現をはじめ、様々な活用を通じて絶大な威力を発揮するものです。しかし社会科の授業は、こうしたコンピュータの操作そのものを学ぶ場ではありません。操作があまりにも難解であり過ぎたり、これを習得することに多くの時間がとられてしまったら、社会科本来の目的に迫ることはできません。社会科では、資料を適切に収集・選択・処理・活用し、資料に基づいて考察する態度を身に付けることこそが目的であるべきです。したがって、これまでの授業に対する考え方と基本的には変わるわけではなく、あくまでも優秀な道具の一つとしてコンピュータの活用を授業に位置付けていくことが必要です。

今回の授業実践での生徒の反応を見ていると、社会科の授業にコンピュータの活用を積極的に位置付けていくことは、授業改善を進める上で大きな役割を果たすものと考えられます。生徒が主体的に学習に取り組む中で、必要な資料を自ら選択し、活用することにより、資料活用能力や表現能力等の高まりが期待できます。また、1台のコンピュータを複数の生徒が活用することで、授業場面での生徒間のコミュニケーション能力を高めることにもつながります。新しく市販のソフトウェアを購入しなくても、教師が様々な工夫を凝らすことで、今学校にある機器を活用して授業改善に生かしていくことができます。そして、今後、インターネットやマルチメディア対応型のコンピュータが各校に普及すれば、これは、社会科の授業改善を更に進めていく上で、大きな可能性を秘めたものになるものと考えられます。

今後の課題としては、生徒たちが、コンピュータを特別なものとしてとらえるのではなく、一つのツールとして目的に応じて使いこなせる操作能力を高めていくことです。それにはまず、教師自身のコンピュータ操作能力を高めていくことが第一に求められています。教科におけるコンピュータ活用については、ねらいを十分に吟味し、活用場面や活用方法、活用形態も含めて、一層の研究と実践を積み上げていくことが大切です。



資 - 8 「学習の様子」